

地域と生徒と共に暮らし、挑戦していく。 鎌本光司さん

下川でのリアルな暮らしぶりを町内の方にお話ししていただくコーナー。今月は、北海道下川商業高等学校（以下、下商）で校長先生を務める、鎌本光司（みつじ）さんです。



北海道にハマったのは大学の時です。自然の豊かさや出会う人たちのおおらかさに惹かれました。道内で教員採用試験を受け、2019年の時に下商の教頭として赴任しました。が、2年目に新型コロナウイルスが蔓延し、学校行事や授業が制限されてしまいました。その後、函館市の学校を経て2025年4月から下商の校長に着任しました。教員としていろいろな学校や地域を周りましたが、初めて来た時から下川町は、おおらかでチャレンジ精神があると感じています。SDGs未来都市に選定されていたり、長年木質バイオマスの熱供給を

行なっていたり。「総合的な探究の時間」を通じた地域とのつながりも強く、学校と地域が一体になっている印象があります。学校と地域の間にはコーディネーターさんが入ってくれているのも、心強いなと感じます。生徒たちも、目的意識を持っている子や誰かの役に立ちたいと感じている子が多いです。スキージャンプの選手として世界で活躍している生徒がいることも、周りにへの刺激になっていると思います。

校長として学校外の方と関わる機会が多くなり、全校生徒のことがより自分ごとになったと感じます。学年に関係なく生徒たちの成長を感じられることが増えたのは嬉しいですね。

住民の一人としても、下川町は暮らしやすい地域だと思います。先日は、山菜のお裾分けをもらいました。それから北海道旭川商業高等学校で教員を務めていた時期に旭川商業高校に通っていた教え子が、下川に何人かいるんです。当

時の生徒が大人になり、下川で再会できたのも嬉しかったですね。

今後は、地域の方とも連携しながら「総合的な探究の時間」をブラッシュアップできたらと思っています。道内の選抜高校から生徒が自分の考えた地域貢献のアイデアを発表する「Ezo探究festival」で、下商生が2年連続で上川管内の代表に選ばれました。今後も地域の方々のサポートもいただきながら、生徒と一緒に学び、新しいことにチャレンジしていきたいです。

